

国際会議報告

The 54th Annual Microwave Power Symposium (IMPI 54 Virtual Symposium) 報告

International Microwave Power Symposium (IMPI 54) Report



上智大学理工学部物質生命理工学科 堀越 智
(Sophia University, Satoshi HORIKOSHI)
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1
e-mail: horikosi@sophia.ac.jp

今年で54回目となる International Microwave Power Institute 国際会議 (IMPI 54) は例年通り6月15~17日にアメリカで行われる予定であった。しかし、コロナウイルスの拡大に伴い開催の中止も2月には検討されたが、IMPI 理事長の Bob Schiffmann 氏のリーダーシップの下、各実行委員の調査に基づいて3月末にオンラインでバーチャルに行われることが決定された。筆者も実行委員を勤めているが日本を含めたアジア全体の解析結果を報告したが、その話を聞いたその日には、理事長のトップダウンでオンライン開催を決定し準備が始まった。トップの迅速な決断と各委員の俊敏な実行力は、小さな学会だからできる利点であり、JEMEA も見習うべきところがあるかもしれない。



図1 筆者も自宅で学会参加

学会の開催方法として、参加費を半分以下に設定し、Zoom を使って発表が進められた。

また、日本やオーストラリアからの参加者に気遣い、これらの国の発表者は現地時間の朝 9:00 からの発表が設定された。アメリカでは夜であったが、多くの参加者があり、議論が白熱した。当研究室からは修士 1 年の 2 名の学生が参加したが、15 分の発表に対して各 10 件程度の質問を受けることができた。アメリカには行けなかったが、学生にとってはいい学会発表の経験になったようだ。

今回の問題は Zoom を使ったオンライン発表であったため、質疑応答に混乱が予想された。しかし、発表前に座長から、「質問がある人は発表中にチャットで質問を書くように」とアナウンスがあり、発表終了後は座長がこれを順番に読み上げた。これには座長が質問を効率よく捌ける利点と、発表者が聞き取れない場合でも、チャットで内容を確認できる利点があり、非常に良いルールであった。また、閉会式では口頭発表賞、ポスター発表賞、奨励賞が 3 名選ばれ、当研究室の新井勇平君が奨励賞に選ばれた。50 ドルの賞金と 1 年間の年会費無料の栄誉を授かることができた。

本年度の参加者は 94 人と通常の学会に比べ参加者数は減少したが、むしろ活気のあった学会を開催できたのではないかと思う。また、社会混乱なのかでも十分に充実した学会が開催できる良い例を示した IMPI 54 であった。次回の IMPI 55 は 2021 年 6 月 28～30 日に港湾都市であるジョージア州サバンナで開催される予定である。